

ボランティアゆえ限りなくできる

＝ボランティアでスタートしました＝



長崎県南島原市 木村優仁

私は、当時の町長さんと助役さん、8町が合併しての市長さんに依頼されてお受けしました。受けたときは40代だったので、受けたからには、ボランティアでも天職と思い30年間務めようと思っていました。

地元、長崎市、福岡市、東京都での活動費用（旅費など）は1年間30万円（×30年）ほどあれば足りるのではないかと考えて用意しました。

お陰様で役職を受けて地元、長崎市、福岡市、東京都に行くようになりました。旅費や活動に必要な経費は支給していただきました。費用弁償金は通帳に送金されたままで引き出したことはありません。これは、就任前に活動費は事前に準備していたためです。

日本オンブズマン学会のシンポジウムや国内での開催の国際学会への参加や国外の学会・記念式典などの活動費を入れたら、当初の2倍近く支出しています。

このようなことは、初めてお話ししますが、委員活動のことは、なるべくお話しを控えています。「そこまでしないとイケないのですか。」「委員になりてがいなくなります。」とあるからです。

人は、問題や悩みが生じたとき、自分だけでは思案が堂々めぐりしてしまい、問題に問題を重ねてしまいがちです。そこで私は、相談者から問題を切り離してあげて、問題と距離を置き、第三者の立場（傍観者的な視点）にしてあげることに努めています。

いわゆる、もう一人の自分を作る作業をしてあげて、問題や悩みを抱えている自分を見つめることを繰り返しながら問題や悩みが起きた以前に戻れる手伝いをしています。

コロナ感染拡大の中でも相談会を開催し、講演研修等の要請も一切お断りしないで全て訪問してきました。お陰様で相談件数は減少せず一定数で推移してきました。

人生の瀬戸際に、一筋の光（望み）が差し込み、その光に向かって放った心の叫びをそれぞれ場面が違っていました。これまで3度聞きました。それは「You are the last hope. (あなたは私の最後の希望（光）だ。)」という言葉です。

我々の活動は、ボランティアですが、ボランティアであるからこそ、相談される方のきびしい評価がなされるものと、常日頃、考え対応しています。無料だからこそ限りなく出来る楽しみや喜びもたくさんあります。そして、「あなたに相談して良かった。」を聞きたくて相談者に寄り添い、これからも地域と共に歩き続けようと思っています。

◇「何でも相談出来ますか」（相談は何でも結構です。）「何でも解決出来ますか。」と聞かれることがあると、各種委員の方から時々話を聞きます。その方は「全て解決は出来ません。」と、答えるとそこで会話は終わるみたいです。

わたくしは今までありませんが、解決に向けて最善を尽くし、出来ない部分は専門家や関係機関に繋ぐようにしますので、日頃よりお伝えしています。

今まで、便利帳（ベンリングノート）や相談先カードに各種相談先を網羅して列記していましたが、私が改善・解決できないことは繋ぐので、私の携帯番号だけで足りることに気づきました。